

馬車道通信

残暑お見舞い申し上げます!



「土用の丑の日」のうなぎ・・・

一説によると江戸時代、うなぎが売れなくて困ったうなぎ屋が平賀源内（日本のダ・ヴィンチ?）に相談したところ「本日、土用丑の日、うなぎの日」と店先に貼り出したところ飛ぶように売れたとか・・・今も昔も、暑い夏を乗り切るために精のつく物を食べることは変わりませんね。今年は早くから猛暑!! 体調管理をしっかりとって夏バテに気をつけましょう! ちなみに今年の「土用丑の日」は過ぎてしまいましたが・・・。

暑い!!
新里です!
育成センターの仕事について
4ヶ月が過ぎました!

『新里のひとりごと・・・』電気代を気にしてエアコンを使うのを控えていたのですが、室内でも熱中症になるのではと考えを改めなければと思うのでした。

情報スポットから助成金の活用 No.11



子ども・若者や子育てに関わる活動の充実には、財源の確保が不可欠です。現在募集中の助成団体を掲載しました。ぜひ、活用し、活動を充実させていきましょう。(この他にも情報があります。詳しくは窓口でお尋ね下さい。)

助成制度名公募	助成対象	助成金額	募集期間
夢屋基金 公益財団法人 公益推進協会	子どもの健全育成、国際交流・親善などの活動を行う団体	上限額 50万円 (1件あたり)	~2015/8/26
助成金 公益財団法人 SBI子ども希望財団	児童養護施設における「地域小規模児童養護施設」の新設または「分園型の小規模グループケア」の新設を対象	上限額 300万円 (1件あたり)	~2015/8/31
重い病気を抱える子どもたちの学習支援活動助成 公益財団法人 ベネッセこども基金	重い病気を抱える子どもたちの学習支援などの活動を行う団体	総額 2000万円	~2015/8/31
日教弘本部奨励金 公益財団法人 日本教育公務員弘済会	学術、芸術、国際交流などにおいて、研究・活動を行う教育機関及び非営利団体	上限額 100万円 (1件あたり)	~2015/9/30
日教弘本部 教育団体研究助成金 公益財団法人 日本教育公務員弘済会	学校教育の向上発展に寄与する研究・活動を行う教育関係団体及び教育研究団体	上限額 100万円 (1件あたり)	~2015/9/30
国内助成プログラム 公益財団法人 トヨタ財団	地域の担い手となる事を目指す若者の支援活動を行う団体	実施内容と申請額に基づき、選考委員会で決定された金額	2015/9/1~9/30



利用者さんの広場

～育成センター利用者さんの活動やインタビューをご紹介します！～

『LILIA SWAN』（スタジオ利用）

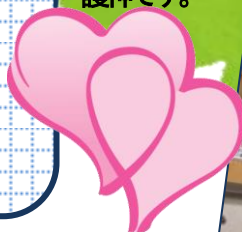
クラシック音楽出身の仲間です。ダンスを取り入れながら、ロックを演奏します。

現在、レパートリーを増やしている最中です。できれば2年後くらいに何かしらかたちにできると良いです。

(LILIA SWAN さん 談)

青少年のみなさんへステキなメッセージをいただきました！

あなたの夢や希望が、たとえどんなに「小さくて、とるにたらない」または「大きすぎて、遠すぎる」とあなたが思っても悲しくなっても、あるいは他人からそう言われたとしても、あなたの夢や希望はいつもあなたの守護神です。



馬車道コラム Vol.33 ブラス・ロック(Brass Rock)

馬車道のレコード屋さんに入ったら、ご機嫌なブラス・ロックが聞こえてきた。ブラスロックグループの「Chicago(シカゴ)」だった。

高校・大学時代、ロックは今ひとつ馴染めなかったが、1970年代に「かっこいい!」と思ったのが、「ブラス・ロック」だった。ボーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードといった標準的なロックバンドの編成に、サクソやトロンボーン、トランペットなどのブラスが加わった編成が「ブラス・ロック」である。

「Chicago(シカゴ)」(1967年結成)というバンドは今もって活動を続ける老舗ブラスロックバンドである。「25 OR 6 To 4 (邦名:長い夜)」は日本でもヒットした曲である。2000年代にはビッグバンドの名曲をカバーしたアルバムがあり、ジャズファン必聴のご機嫌なシカゴサウンドを聞かせてくれている。そして、大学生の時に好きだったのが、「チェイス(Chaise)」(デビュー1971年)である。このバンドはブラスと言っても、トランペットを主体としたロックグループである。中でもデビュー曲の「Get It On

(邦名:黒い炎)」は間奏のトランペットソロがご機嫌である。曲の最後のドラムのフィルイン「ダトウダトウダトウチャント」は、今もってお気に入りのフレーズだ。「BST」というサンドイッチみたいな名前のグループもある。「ベーコン・サーモン・トマト」ではない。「Brad Sweat And Tears (血と汗と涙)」というブラスロックグループである。<ジャズおやじ>が大好きなジャズの巨匠ハービー・ハンコックが作曲した「処女航海(Maiden Voyage)」をカバーして、もしこのCDがあれば、ぜひ手に入れたいと思っている。

<ジャズおやじ>にとって70年代はブラス・ロックの時代だった。いつの間にか、自分たちが若かりし頃に流行った音楽がなぜか懐かしく、愛おしい年齢になってしまった。

<ジャズおやじ>



講座の報告

『発達障害の子ども・青少年の理解と支援』を終えて

71名の参加者を迎えて、6月30日(火)に実施されたこの講座は、申込人数が180人を超えるという大きな反響がありました。

中本テリー先生の講義は、まず隣同士で自己紹介をして互いの共通点を見つけることから始まり、皆さん、あっという間に“テリーワールド”に引き込まれていきました。

先生の「子ども・青少年への支援を楽しむには、まず自分の心が元気であること。」「自分をいたわるセルフケアを大切にしましょう。」という言葉に、皆さん大きく頷き、励まされました。

ユーモアもあり、メリハリのきいた楽しい、元気の出るお話に、まさにセルフケアができ、テリーファンが大勢生まれた講座でした。

アンケートより「難しい内容を受取りやすいアプローチ、表現でお話してくださり、内容はシビアですが、楽しい気持ち、なんだか自分も出来そうな気持ちになりました。」

<職員 齋藤>



【お申込み/お問合わせ】※感想や情報をお寄せ下さい。

横浜市青少年育成センター TEL:045-664-6251 FAX:045-664-6254 E-mail: ikusei@yokohama-youth.jp

